



第28回 中学生大使派遣事業

フードリバー訪問記 後編

2012.3.15 ~ 3.25

今年も中学生大使18人が、3月15日から25日までの11日間、姉妹都市の米国オレゴン州フードリバーを訪問してきました。

参加した生徒たちは文化や言語の壁を越えて、はるか1万キロ離れた大地で、友情を深く、フードリバー市民との絆を深め、元気に帰ってきました。

先月号の前編に引き続き、中学生大使の体験記とその模様の後編をお送りします。



佐藤 日和

楽しかったフードリバー

ぼくはフードリバーでいろいろな思い出がありました。

一つ目は中学校訪問です。中学校に入って廊下を歩いたら生徒が迎えに来て注目されていると思いとても緊張しました。歩いていると生徒から「ハロー」「こんにちわ」などたくさんの人から声をかけられその緊張はほぐれました。ランチタイムにはいろいろな人が近くにきてほくたちとコミュニケーションをとってくれ、休み時間には1対1のバスケットボールなどをして遊び、たくさんのお友達と思い出を作ることができました。

二つ目は、ホストファミリーと一緒に過ごした時間です。一緒に食事をしたり、ゲームや買い物をしたりするのが毎日とても楽しかったです。食事とき、いつも笑顔でいるファミリーの皆さんに温かさを感じました。

フードリバーでの9日間は、ぼくにとってかけがえない思い出となり、何から何までお世話していたいたホストファミリーにとても感謝しています。本当にフードリバーに行ってきたと思えました。

今後は、フードリバーでの体験を生活に活かして、そしていつの日かまたアメリカに行きたいと思えます。



・小学校訪問で児童たちとダンス

フードリバーの思い出

わたしは出発する前、緊張と不安でいっぱいでした。そんな思いのまま出発しましたが、フードリバーに到着すると、たくさんの方々とホストファミリー皆さんが温かく迎えてくれたので、不安はすぐに消えました。わたしのホストファミリーのみんなはすごく優しく、中でもお父さんが優しく、わたしの面倒を何でもみてくれました。家族のみんなは、わたしが英語を理解できるように何度もゆっくり話してくれました。わたしの方からジェスチャーを交えて会話をすると、みな真剣に聞いて理解しようとしてくれたので



・ミドルスクールでは訪問団のために吹奏楽を披露してくれました

もつれしかったです。フードリバーでは、ローラースケートやボウリング、スキーなどとして楽しい思い出がたくさんできました。特にスキーは思ったより急な斜面が多くてびっくりしました。また日本では、比毛ものにならないくらいスキー場のスケールが大きくて驚きました。食べ物も、みんなサイナスが大好きでおいしかった。あまり食べ過ぎてお腹をこわした日もありました。それも今となっては思い出です。ホストファミリーの皆さんには、家族の一員として温かく迎えてくれて本当に感謝しています。ありがとうございました。本当にありがとうございました。



・マウントフッドスキー場で珠羅と



藤田英里香

フッドリバーの友だち

ミドルスクールはとても大きい学校です。生徒もたくさんいます。ミドルスクールには滞在4日目から2日間しか通えませんでした。その間にたくさんのお友だちをつとめることができました。

朝、チャイムが鳴って学校に入るといきなり授業が始まり、宿題の答え合わせが始まります。授業の間は、みんなが質問したり、先生が書いた絵や図を書いたりしてとてもぎやかでした。そこで科学、美術、技術、本読み、社会、体育などさまざまな教科を体験しました。体育の授業ではフリスビーの試合をやっている、その間友だちからたくさん質問を受けました。女子より男子の方がたくさん話しかけてくれました。中にはわたしが聞き取りやすいようにゆっくり話してくれる優しい人もいました。そうしていると一緒にやるう、来て」と友だちが誘ってくれて、みんなと一緒にフリスビーを楽しみました。ランチャイムに初めて話しかけてくれて、仲良くなった人もいます。友だちの中で印象深かったのはフレイジーボーイと呼ばれる人です。お互いにフレイジーを連発して笑い合ったり、アメリカスタイルの縄跳びをしたりして楽しんだことは忘れられません。



・パーティーでホストファミリーと



宮本 匡隆

研修を終えて

11日間のフッドリバー研修を終え、さまざまなことを学び、そして楽しめました。

その中で一番驚いたことは食文化についてです。日本の食文化は、野菜や魚など中心の食生活ですが、アメリカでは肉を中心に、あまり野菜を食べない食生活でした。肉料理が好きなのにとっては最高の生活でした。

フッドリバーで過ごした9日間は、時間がとても早く過ぎるのよに感じました。ホストファミリーと過ごした時間、スノーボードやローラースケート、ショッピングなどの楽しい時間、あつという間に過ぎてしまいました。

その中で一番印象に残っているのは中学校見学です。フッドリバーの中学校は日本と違い、授業中にお菓子を食べたり、話をしたりとあまり規則が厳しくないようで、自由に授業を受けていました。学校の生徒たちは、わたしたちの言葉があまり通じないにも関わらず、積極的に質問してくれたり、気軽に声をかけてくれたりして、仲良くなることができました。

この体験は一生忘れられない素晴らしい思い出になりました。このような機会を与えてくれた鶴田町の方々と両親に感謝の気持ちでいっぱい입니다。ありがとうございます。ついでにまた



・ローラースケートで仲間たちと



野宮 珠々

短い期間でした

9日間という短い期間の中で印象深く残っていることは、ミドルスクール(中学校)に行ったこと、ホストファミリーとポートランド市内へ行ったことです。

ミドルスクールへは2日間行きました。初日はあまり馴染めませんでした。2日目の体育の授業のフリスビーに参加して、みんなと会話をして仲良くなることができました。フッドリバーの人たちはみんな気さくに明るく話しかけてくれて、少し緊張したけどとてもうれしかったです。そして友だちがたくさんできました。

滞在中にホストファミリーの方がポートランド市内に連れて行ってくれました。ポートランドでは、まずショッピングをしました。そしてポートランドで人気のランニングコースを歩きまわりました。近くに川が流れていて、夕日も出ていました。ホストファミリーの後ろをゆっくり歩いていると別れの日が近づいている気がしてすごく切ない気持ちになったけど、とても景色がきれいで感動しました。今でもその光景が目に浮かびます。

フッドリバーでホームステイ9日間は本当に短い期間でしたが、本当に貴重な体験になりました。滞在中わたしは何度も「来てよかった」と思いました。フッドリバーの皆さん本当にありがとうございました。Thank you!!



・ミドルスクールの友人たちと



- ①最終日、フッドリバーのダウンタウンを散策する女子たち (3/22)
- ②3月22日の夜、さよならパーティーで合唱を披露する大使たち。皆さんからの拍手が鳴り止まず
- ③訪問記念の記念樹を植樹しました (3/21)
- ④レイ・ヤスイさんのお墓参りで墓前にお花を手向けました (3/21)
- ⑤ポートランドでのショッピング。お財布にいくらドルがあるのか悩んでいます (3/21)
- ⑥姉妹都市委員会会長ニコー・ヤスイさんとさよならパーティーでの楽しい一コマ



太田理佳

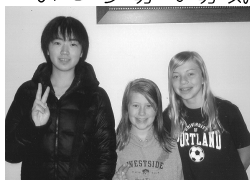
フッドリバー!!

わたしはフッドリバーに行つて、フッドリバーの方々の優しさ、日本の文化の違いが印象に残りました。

ローラースケートを体験していたとき、わたしは日本から持って行ったパジャマを落としてなくしてしまい、お別れの最後の日までホストファミリーの方に迷惑がかかるとお思い言えずにいました。最後の日の朝、恐ろしい打ち明けると「OK!」と言つて車でその場所に連れて行つてくれ、一緒に探し回つてくれました。見つけた瞬間、わたしは胸が熱くなりました。本当に優しく心が広い人たちだと思いました。滞在中はホウリンゴやショッピンゴなどがありました。一番楽しかったのが中学校訪問です。体育館がたくさんあったり、授業中お菓子を食べていたり、日本とは全く違っていました。生徒の人たちはたくさん話しかけてくれてうれしかったです。日本との文化の違いについてたくさん発見できた中学校訪問でした。

今回フッドリバーに行けたのも、そこで楽しく体験できたのも家族や引率の花田先生、またこの訪問に関わっている方々のおかげです。本当に素晴らしい体験をありがとうございました。

この訪問で、積極的に行動する、あいさつや感謝の気持ちを伝える大切さを学びました。この気持ちを大切にホストファミリーとの交流をずっと続けていきたいと思つています。



・ホストファミリーの子どもたちと



工藤真子

サプライズパーティー

フッドリバーに行つて一番印象に残っていることは、ホストファミリーのケーシーの友だちカッターのサプライズパーティーに行つたことです。

サプライズパーティーの朝、ケーシーとその友だちと一緒にカップケーキをつくりました。生地もクリームもすごく甘くて、色も赤や水色、紫などとてもカラフルで、アメリカのポストカードにありそうなカップケーキができてありました。そのケーキを持って、カッターの家へ向かいました。

カッター家にはたくさんの方々が来ていて、出かけているカッターが帰ってくるのを待っていました。20人以上の友だちが隠れている家にカッターが帰つてくると、友だちが一斉に「サプライズ」と言つて出てきました。わたしと一緒に参加していた鶴田の友だちは、そのとき、あまりのにぎやかさにタッカーが誰なのか、どこにいるのか分からませんでした。

その後、家の庭で持ち寄ったカップケーキやお菓子を食べたり、初めてのタコスを食べたりしました。家の中では音楽に合わせてダンスをしていましたが、わたしは4人（珠々さん・絵里香さん・未来さん）は、ソファーに座つて英語を日本語に訳してみんなに教えていました。

日本にはないとても楽しいパーティーでした。本当にアメリカの人たちのテンションの高さと体力に驚かされた1日でした。



・ケーシーとお母さん



花田 圭

2度目のフッドリバー

2回目のフッドリバーでした。2年前にお世話になったホストファミリーのスー・コリンズさんの家に再びホームステイさせてもらいました。街並みもほとんど変わっていません。初日からスーさんから自転車を借りて、フッドリバー市内を走り回っていました。

また、市民の人柄の良さも2年前と変わらず、ダブルマウンテンやフォアセイル（地ビール）の味もそのままです。

今回の引率で前回と異なる点といえば、消防署長の工藤さんが同行してくださったことです。趣味である写真を活かして多くのスナップショットを撮つてくださいました。工藤さんの穏やかな人柄が生徒の人気を集めていました。

当たり前のことですが、2年前とは生徒たちの雰囲気や性格も違いました。海外や英語に興味があるという根本的なことは同じですが、今回参加した生徒たちは、2年前よりも頼もしかったです。前は、優秀的な雰囲気の子供たちが多かったのですが、今回はよりフレンドな、より物おじ知らずのメンバーが揃っていました。たとえば、8日目のポートランド市のショッピンモールでは、

キス物の商品を値切つた男子がおり（しかも英語で値切り交渉）、7日目のボウリング場での異常な盛り上がりは、同行し



・雄大なマウントフッドスキー場で万歳!

てくださった東奥日報の熊谷さんもここ10年では一番の元気の良さだと驚いていました。（わたしはまるでジャスコのボウリング場にいる錯覚を覚えました。特に女の子の勢いが止まりませんでした。



・滞在最終日「ツルタパーク」で記念写真

最後にもう一つだけ、2年前とは大きく変わったことがあります。昨年3月11日の東日本大震災についてです。どこに行つてもそのことを尋ねられ、わたしの説明を涙とともに聞いてくださった方もいました。メディアでは、日本国内の強い結びつきが強調されてきましたが、海外からの強い関心や絆を改めて実感しました。

今回のフッドリバー訪問は、2度目の引率者として考えさせられることが多くあり、充実した11日間でした。同行してくださった工藤さんと熊谷さん、そして何よりも「サヨナラパーティー」で感動的なアトラクションを披露してくれた18人の生徒たちに感謝します。

- ①別れの朝、ホストファミリーや友だちと話が絶えない大使たち
- ②ニコー・ヤスイさんの愛娘アヤちゃんも見送りに来てくれました
- ③帰りのバスの車窓から見るリンゴ園とフッド山
- ④最後に全米2番目の高さのマルトノマの滝を見学して無事訪問を終えました

